

令和4年度 第2回森町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和5年2月22日(水) 午前10時30分～午後0時00分

2 場 所 森町文化会館 第1研修室

3 出席者 森町長 太田 康雄
森町教育委員会
教育長 比奈地 敏彦
委 員 村松 昌吾
委 員 鈴木 眞子
委 員 早馬 保男
委 員 佐藤 佐和子

(説明出席者)

学校教育課長	塩澤 由記弥
学校教育課長補佐	土屋 智也乃
学校管理係長	井口 寧了
庶務係長	鈴木 真央
社会教育課長	松浦 博
社会教育課長補佐	三澤 由紀子
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	小澤 貴代美

4 議 事 (1) 令和4年度 森町の教育について
(2) 地域とともにある学校づくりの推進について
・学校運営協議会(コミュニティスクール)
・地域学校協働本部

5 傍聴人 1人

6 議事の概要

学校教育課長 開会
町長

本日は今年度第2回目の総合教育会議にお集まりをいただき、また日頃から教育行政をはじめ、町政全般にわたりご理解ご協力をいただきお礼を申し上げます。先日2月19日の杭迫先生の寄贈作品展のオープニングセレモニー、またそれに引き続いての記念講演会に教育委員の皆様にもご出席いただいた。昨年9月に名誉町民の称号を贈呈し、その際作品を寄贈してくださるということで準備を進めてきたが、作品の点数がたくさんあるということと、また記念講演会には県内外から多くの方がいらっしやるだろうということで、いろいろなところに気を配りながら、社会教育課を中心に準備を進め、良い講演会ができた

と思っている。作品展については今も開催中であるため、より多くの皆さんに作品を鑑賞していただき、森町名誉町民杭迫柏樹氏の人柄に触れていただきたいと思っている。今回全ての作品を展示できなかったため、また回を重ねながらお披露目をしてまいりたい。さらに今年は、静岡県が東アジア文化都市に選定された。それにより県から東アジア文化都市に関連する事業を各市町で実施してほしいとの要請があったため、日本、中国、韓国共通の文化である書を通じ、交流を図る事業の検討を進めているところである。既に令和5年度の当初予算については編成が終わっているので、この東アジア文化都市に関連する事業は予算計上することはできなかったが、今後、補正予算を組みながら、秋に向けて開催の準備を進めていきたいと考えている。また教育委員の皆様にもご意見ご指導をいただければと思う。

本日の総合教育会議については、令和4年度の事業について報告をさせていただきながら、また今後に向けての意見交換をさせていただくのでよろしくお願いする。

教育長

町長にはお忙しい中、第2回総合教育会議を開催していただき感謝する。冒頭、町長も触れたが、杭迫氏のオープニングセレモニーと講演会が開催できたこと、また多くの皆さんが参加していただいたことを嬉しく思う。町長には教育関係で多大なご支援をいただいております、本年度は国の交付金を使い全ての小・中学校に森町の材を使った抗菌仕様の机と椅子を揃えていただいた。子供や保護者からも本当に良かったという声をいただいている。

コロナ関係については、3年が経過し落ち着いてきたが、それでも学校では0にならないというのが心配である。しかしながら、本年度は非常に落ち着いた教育活動ができ、子供たちの思い出のポケットがそれぞれいろいろな形で膨らんだ1年であったと思う。3月31日が本年度の締めであるため、油断しないように各学校で安全・危機管理を徹底しながら過ごしていく。

本年度の社会教育課、学校教育課の事業についても、規模縮小や若干の変更はあったが大体予定通り終わった。あとは次年度に向けてそれぞれ情報交換をしながら計画を立てていけたらと思う。本日は本年度の反省という部分を中心であるので、ぜひ委員の皆様からの声を聞きながら町政の方で生かしていただけたらと思う。よろしくお願いする。

学校教育課長

議事進行を町長に願います。

町長

議事(1)令和4年度森町の教育について、事務局から説明をお願いします。

健康こども課長

資料のとおり説明。

学校教育課長

資料のとおり説明。

社会教育課長

資料のとおり説明。

町長

事務局からの説明について、質問等あるか。

鈴木委員

学校教育課の環境教育について、子供たちが実際に三倉へ行き活動ができたということが、コロナ禍ではありながら大きい成果だったと思うし、修学旅行や宿泊訓練等も今年度は予定通り実施できたようで良かった。また現地には行けなかったが、広島の被爆体験伝承者の話を聞いたというのが大きい経験であったのではないかと。

町長

環境教育推進事業については、国から森林を保護活用するようということ

で、今は森林環境譲与税という形で森町にも国から交付されている。いずれ森林環境税ということで全国民から納税していただいて、それを充てていく。森林環境譲与税にはいろいろな活用方法があるが、これまでは主に所有者の意向を確認しながら、個人が持っている森林そのものの管理についてこの森林環境譲与税を活用していた。しかしながら、このような環境教育にも使えるため、子供たちの森林環境に対する意識を高めるという意味で、森林環境教育を実施したところである。実施の場所としても旧三倉小の学校林で、森町の子供たちが三倉地区の森林で学び、その地区を知るという意味でも良い事業である。今後も継続して実施をしていく予定。

佐藤委員

情報教育推進事業で、1人1台端末を整備していただいており、以前旭が丘中学校が学校閉鎖になった際、朝に出欠確認をし、できる授業はリモートで行っていた。保護者としては学校閉鎖になっても生活リズムが乱れないような形がとれたのですごくありがたく、大変な中でも端末を活用できたことが良かった。

また鈴木委員もおっしゃっていたが、広島平和記念式典に参加できなくても、被爆体験伝承者から直接話を聞く機会を得られたということも良かったのでは。さらには、小中学校に学習机と椅子を購入していただいたことについて、とても嬉しかったという声を聞いておりありがたかった。

町長

広島平和記念式典への小中学生派遣事業については、コロナの関係で実施ができない状況であった。選ばれた数人の児童生徒が、現地へ行き体験するというのも、その子供たちにとってはとても大きな経験ではあるが、それをいかに他の子供たちに伝えていくかというのは、なかなか難しいところもある。今回こうして被爆体験伝承者をお招きし、多くの児童生徒が話を聞くことができたというのは、これはこれで良かったのではないかと。今後については、被爆体験伝承者も高齢化しているため、実体験をした方の話がいつまでこういう形で聞く機会が持てるかというのは課題であるが、実施の方法については検討をしている。それから机と椅子の更新について、子供たちが喜んでいくということで嬉しく思う。実はこの事業もコロナ対策ということで抗菌仕様にし、国からのコロナの交付金と、さらには先ほども触れたが森林環境譲与税を活用している。理由としては、森町内の地元産の材を使っており、それも子供たちにとって親しみになり、森林に対する意識、また森町に対する意識の高まりになればと考えている。

早馬委員

英語教育推進事業としてJETプログラムを活用し、ALT6名を各学校へ配置しているが、やはり実際に外国の方の英語が耳から自然に入って、さらには外国の文化にも触れることができるため、非常に良い機会であると感じた。先日テレビで、英語の授業をかなりの時間を割いて行っているのになかなか喋ることができないということを知った。身近に英語があり、耳から自然に入ってくることで慣れていくということも非常に重要なことだと感じた。

また、先日の杭迫柏樹先生の展覧会や、東アジア文化都市について、非常にタイムリーな良い機会に森町は恵まれたと思う。やはり先生の作品を見ることで、子供たちの教育は小中学校で行われるものだけではないということを示していただけたのではないかなと感じた。

町長 英語教育について、平成30年度から6人体制でJETの若者を受け入れてきた。なかなか取りかかりが大変であったがだいぶ軌道に乗ってきている。やはりネイティブの英語を聞くというのがすごく重要であり、特に低年齢、低学年の時にそれをやっておくことが、実際に話せるようになるかどうかという大きなポイントになると思い、私が町長になってからALTは6人体制としてきた。コロナでなかなか来日できないという四苦八苦の時期もあったが、これでまたコロナが収まれば、6人体制を維持していけるのではないかと考えている。

それから杭迫先生の展覧会が終わった後に、見送りに先生が立たれて、中高生で書をやっているというお子さんが先生にいろいろお話をされていた。先生も1人1人に丁寧に受け答えをされていて、とても良かったのではないかと考えた。以前にも「ほっと書展」という磐田、袋井、森町のそれぞれの文化協会共催の書展があったが、地域で書の文化が根付いていると感じられ、そのような風土があり、杭迫先生のような書道家が生まれたのではないかと、その背景をうかがい知ることができて良かったと思う。

また英語教育に関して、以前この会議でも英検のことでお話があったが、来年度の英検の会場について何か公表できることがあれば事務局から願います。

学校教育課長 しばらく前までは、各学校を会場として英検を実施していたが、昨今、先生方の働き方改革や会場使用の関係で、今まで通りの取り組みはできていなかった。来年度については、まだ英検の日取り等が確定していないが、文化会館等の大きな会場を確保し、学校の先生からアドバイスを受けながら実施に向けて協議を進めたいと考えている。

村松委員 健康こども課、学校教育課、社会教育課、いろいろな事業を実施していただいた。今まではコロナにより自粛して思うように活動ができなかったが、来年度以降は再開していくのではないかと楽しみにしている。そのような中で、子供たちが明るく元気に育っていくために今後も引き続き支援をしてほしい。子供たちにとっては、いろいろなものを体験する、見る、教わるということは非常に刺激がある。また今後は部活動も地域移行をしていき、外部の人に講師をお願いしていく中で様々な費用がかかってくる。教育に関しては町からも予算を付けていただいているが、これからも少しでも多く教育に予算を入れてほしい。子供というのは千差万別で、いろいろな子がいる。個の対応というのが本当に大切になってくるため、よろしくお願ひしたい。

町長 3月議会で、来年度の当初予算について審議をしていただく。あまり具体的なことは申し上げられないが、子育てや義務教育の期間、あるいは幼児教育の期間だけでないいくつかの新規事業を考えている。お話があった支援が必要になる子供さんに対する対応であるとか、あるいは子供さんだけでなく、家庭に対する対応であるとか、お父さんお母さんに対する対応であるとか、そういったところで、大きな予算ではないが必要と思われる事業を実施していくという予算を作っている。その辺はまた注目して見ていただきたい。また学校教育、家庭教育だけでなく、今回の杭迫先生の作品展などもそうであるが、本物に触れる、良いものに触れるということは、子供に限らず、大人にとってもとても大切なこと。そういった意味では、森町には幸いなことに、杭迫先生からいた

だいた書、それから藤本さんからいただいた美術品があるので、来年度も継続的に皆さんに鑑賞していただける場を設けていきたい。

教育長

私の立場で言うと、教育現場というのは1日として同じ日はない。そのように考えると、ここに構えている教育委員会事務局の職員が非常に迅速に対応しており、上手く回っているというのが一番言いたいことである。今後もそれぞれの事業が子供たちのためになるように展開できたらいい。

基本的には、子供が学校へ来て学ぶというのは先生から学び、友達から学び、様々な関わりの中で成長していくものである。そのため関わりという部分で先生にも負担感がないように、また子供も安心して学校生活を送れるように底上げとしての支援を今後もしていきたい。さらには配慮を要する子供も増えていることから、関わり助けてくれる人ももっと必要である。

いずれにしても、年次計画の中で、今年度の反省を生かしながら次へのステップを踏んでいるので、今後も着実な積み重ねをしていきたい。

町長

続いて議事(2)地域とともにある学校づくりの推進について、事務局から説明をお願いします。

学校教育課課長補佐

資料のとおり説明。

社会教育課課長補佐

資料のとおり説明。

町長

事務局からの説明について、質問等あるか。

鈴木委員

これまでもいろいろな形でボランティアの方々が協力してくださっていると思うが、今の話のように声をかけてくれるリーダーがいらっしゃれば、今後も上手く動いていくのではないかと思う。

佐藤委員

学校運営協議会を作ることによって、もし先生方の負担が増えていると大変だと思うが、先生方から負担が減ったという声が聞けたのであれば、それは成果なのではないか。ボランティアも現役の保護者より上の世代の方がやってくださっていることが多い印象であるが、そのパワーはとてもありがたく、すごい力だなというのを見て思う。保護者がもっと参加できることがあればいいのになという中で、「まごころプランター」というものを私もやらせてもらっている。こういうことだったらできるという提案を推進員さんがしてくださったのがすごくいいなと思い去年もやらせてもらった。ボランティアや地域の方々が協力してくれているということに保護者が感謝できる機会がもっとあるといいなと、一保護者として思う。

早馬委員

それぞれの学校の特色や地域の良いところを生かしながらやれることはすごく良いことだと思う。ボランティアの活動で子供たちも地域のことを知り、地域や学校を好きになってくれれば、将来すごく思い出にも残る。地域を好きでいてくれるということは、この先地域に恩返しという、そういうところに繋がっていくと思うので、なかなか受け入れてくれる方も難しいと思うが充実できれば良いと思う。

村松委員

ボランティアの方々から聞くと、子供と触れあうことでエネルギーを貰っていると言う。そこが一番大事な事で、子供が安心安全に元気に育っていくことで、それが活力となり、大人を含め町全体が明るくなる。コロナ禍で触れあう機会がほとんどなかったが、ボランティアをやれる方はぜひやっていただきたい。

ただ一つだけお願いしたいのは、なるべく教職員に負担をかけないよう配慮してあげてほしい。

教育長

静岡県は、コミュニティスクールを全国に比べて遅くスタートした経緯がある。元々静岡県の場合は似たような会がたくさんあったこともあり、ここ10年ぐらい数が増えなかった。でもここへ来て県内でもスタートさせてきたが、解決していないのは、このコミュニティスクールを実施するうえで教頭や教務主任の負担感が永遠に変わらないということ。最初は良いが、最終的には先生方が音頭をとってやらなければならない。この部分が変わらない限り、結局は良い取り組みではあるが課題はずっと残る。そのため今現在も導入してない県もある。

コミュニティスクールは合議制の会議である。コミュニティスクールは学校教育課管轄、地域学校協働本部は社会教育課管轄というところにも非常に壁があり、やりやすさとやりにくさ両面があるのかなと思う。実際にコミュニティスクールは学校にいろいろ意見を言い、学校はそれを参考にしながら取り組んでいるが、最終的なイニシアチブは校長にある。片や地域学校協働本部については、どちらかと言えばコミュニティスクールで出た話し合いの中で学校を助ける実働部隊のような、その地域をよく知ってる推進員が窓口となり働きかけていくというシステムである。将来的には、教頭や教務主任が相談を持ちかけ、その推進員が音頭をとりながらやっていけるようになれば、本物になっていくかなと思う。教職員の負担感という部分については、本当に並大抵ではないところだけのご理解いただきたい。

町長

それぞれご意見をいただいたが、やはり学校現場の負担にならないように、教職員の負担軽減のためにやっている側面もあるため、そういったものにしていかなければならない。どこかで歯車が狂ってしまったたり、認識が違ってしまおうと子供たちを混乱させてしまうのでそこは慎重にやっていかなければならない。静岡県や森町ではまだまだ取り組みが始まったばかりであるため、今後どうあるべきかということを見失わないように、子供たちや教職員、地域の皆さんのためになるようにしていきたい。

議事については、以上で終了となる。

学校教育課長 閉会